

# 令和3年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校 定時制)

目指す学校像	社会の変化に主体的に対応できる力と自立する力を育成する
--------	-----------------------------

重点目標	1 基礎学力の定着を図る 2 地域社会や家庭との連携を推進する 3 進路実現を目指す
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策		
					達成度	実施日 令和4年2月3日		
						学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	<b>【現状】</b> ・多様な生徒が在籍していることから、授業に集中し学習に取り組ませる指導を行っており、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。 <b>【課題】</b> ・授業や部活動等、学校活動に自主的に取り組む態度の育成。 ・多様な生徒に対応した教育課程及び観点別評価の研究	・基礎学力の定着、基本的な生活習慣の確立及び指導力の向上と学習環境の整備  ・教育課程の検討及び観点別評価の理解と試行	①校内巡回、給食、登下校指導表を作成し、落ち着いた学習環境を整備する。 ②ICT機器やアクティブラーニングを活用し、生徒に興味関心を高める授業を実践する。 ③教科間の連携と多文化共生推進員及び学習サポーターの活用により、多様な生徒の支援を行う。 ④教育課程の検討及び観点別評価の研究・試行を行う。	①学校生活・態度など学習規律の定着度合をアンケート、面談等で確認する。 ②アンケート結果から学習意欲・理解度等の向上がみられたか。 ③教職員、学習サポーター等と面談を行うなどしてよりきめ細かく支援ができたか。 ④各教科を活用し観点別評価の研究が進んだか。	①無断遅刻、欠席、早退は減少傾向にある。(R2.72.9%→R3.80.4%) ・レポート、課題の提出状況は向上した。(R2.79.2%→R3.84.8%) ②学校満足度については8割以上が肯定的であった。(R2.88.5%→R3.84.8%)、スクリーンを使用した授業理解度は高い割合になっている。(R2.95.8%→R3.91.3%) ③多文化共生推進員(週2回・4時間)学習サポーター3人(週2~3回・2~4時間)の活用により、生徒の授業理解が向上し、大きな学習支援となっている。 ④各教科の会議を開き、観点別評価の共通理解ができた。	A	①教職員の日頃の粘り強い指導のおかげで基本的な生活習慣が定着してきた。引き続き指導していく。 ②ICT機器を取り入れた授業を教員が展開しわかりやすい授業をしているので、より工夫した授業を行うよう指導していく。 ③多文化共生推進員や学習サポーターと教員間で連携を密に図り、生徒相理解に努めながら学習支援を引き続き行う。 ④来年度からの観点別評価の実施について、さらに共通理解を深める必要がある。	・無断遅刻、欠席が減少してきていることは、先生方の日頃の指導の賜物である。(評議員) ・日本語を母国語としていない生徒の指導を多文化共生推進員と協力して行っていることはたいへんよい。(評議員) ・来年度もコロナ禍の中かもしれないが、引き続き行事等を工夫してやってほしい。(評議員)
2	<b>【現状】</b> ・HP等を活用し、情報発信を行い、学校評価懇話会において意見交換等を実施している。 ・外部の教育機関との連携を積極的に実施している。 <b>【課題】</b> ・コロナ禍で十分な対応が取れず、引き続き多くの保護者や外部の方々に教育活動をご覧いただけるよう周知し理解を得る。	・HP等の情報発信  ・コロナ禍に対応した教育活動等の運営及び開かれた学校づくり	①新聞等を効果的に活用して外部発信する。 ②学校教育活動をHPに工夫した内容で掲載する。 ③学校評議員会や学校評価懇話会の意見を活用する。 ④SSW、SC、自立支援事業等、外部の専門機関との連携を図り、より積極的に活用する。 ⑤各教科委員会と共通理解の下教育活動を運営する。	①アクセス数を増やすことができたか。 ②保護者、外部の参加が増加したか。 ③本年度の反省をし、次年度の課題にできたか。 ④外部の専門機関との連携が強化でき、生徒・保護者に還元できたか。 ⑤コロナ禍に対応した教育活動が行えたか。	①新聞掲載・TV放映はできなかったが、アクセス数を増やすことはできた。 ②HPに写真や生徒たちの声を多く掲載し、給食室のHPをリニューアルした。 ③学校自己評価システムシートや管理職シートに課題を掲載し、課題解決に努めた。 ④SSW、SC等外部機関の連携は、市役所等を交えてのケース会議を開くなど生徒達の心身のケアをした。 ⑤年度が進むにつれ、コロナ禍も落ち着き、工夫しながら各行事が行えた。	B	①学校の日々の細かな教育活動の様子をHPに掲載するとともに、新聞・TV放映などを通して、県・保護者に発信する。 ②学校行事等に、保護者等の参加を広く募り、生徒達の様子を見ていただきたい。 ④外部機関との連携は、年々定着し、生徒達の心身のケアに活かしている。 ⑤さらに教育活動を充実させる。	・今年度は、新聞記事掲載やテレビの放映がなかったので、来年度はメディアに掲載して、川越工業定時制をアピールしてほしい。(評議員) ・教育相談がよく機能している。親として、悩み事を相談できるのはありがたい。(定時制PTA会長)
3	<b>【現状】</b> ・卒業後の進路を定められていない生徒も見受けられるが、粘り強い指導が続けられている。 ・多様な個性を持つ生徒の支援を組織的に実施している。 <b>【課題】</b> ・これまでの成果を踏まえ、各年次、各部会、各委員会等で連携し、卒業後自立した社会人として活躍できるよう生徒を支援・指導する。	・規律ある生活態度の育成とともに多様な生徒の状況の理解と支援  ・各組織間で連携した組織的な生徒の卒業後の自立指導支援の構築	①声掛け運動(登下校時等)を実施する。また、時間を守る等、基本的な生活習慣の徹底を共通理解のもと、実践する。 ②年次、生徒指導部、特別教育推進委員会を中心に、多様な生徒の情報共有、理解、支援を行う。 ③LHRや放課後等を利用した校内外の進路説明会を実践し、就職支援アドバイザーを活用した進路指導の実現を行う。	①出席率が向上し、規律ある授業が展開できたか。また、時間を守る意識が徹底できたか。 ②職員会議・打合せ等で教職員が情報共有して、理解・支援を図れたか。 ③個々の生徒に応じた進路指導が実施されたか。生徒の第一志望の進路実現ができたか。	①年間出席率は(R2.90.2%→R3.90.1%)であり、集会時にも遅刻することなく集合でき、時間を守る意識が徹底できた。 ②多様な生徒の情報を各委員会等で共有し、学年単位で企画委員会・職員会議の場で全教職員に情報提供できた。 ③進路状況は、就職内定11名、四大2名、専門1名、高等技術専門学校1名である。	A	①教職員の日頃の巡回指導や学習指導から、授業規律が確立しつつあり、落ち着いた授業環境となっている。今後も共通理解の上で指導を継続させたい。 ②課題のある生徒の情報を特別支援推進委員会を中心に共有し、教職員全体で対応していきたい。 ③就職支援アドバイザーと連携した進路指導や自立支援事業委員会を中心としたキャリア教育を次年度も継続していきたい。	・授業を受ける環境ができてきていることは、先生方の日々の指導力・授業力のおかげである。(評議員) ・夜遅くまで進路相談してくれて感謝している。(評議員)

